

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教科名	国語	学年・クラス	2年工業技術科
科目名	現代の国語	単位数	2
教科書	新編 現代の国語（大修館書店・現国707）		
準教科書	なし		

育成を目指す 資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
学習の進め方	- 教科書を基に、身近な例や社会の出来事などを交えながら読解力を深める。 - プリントやノートを用いて、学習状況の確認を行う。 - 振り返り学習を行いながら、基礎基本の定着を図りつつ学習を進める。		
学習の留意点	- 毎時間の出席を基本とし、学習用具（教科書、ファイル、ノート、筆記用具など）は忘れないこと。 - わからないことはそのままにせず、その都度質問し、疑問解消に努めること。 - 授業規律を遵守すること。 - 学習、授業の妨げとなるような行動をとらないこと。		
評価の方法	出席状況、提出物の状況、各種テストの得点、授業の取組姿勢などを総合的に判断し評価する。		

学 期	月 別	時 間	単 元	基 礎		準 資 質 力		
				評 知 識 ・ 技 能	価 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現			
授 業 の 内 容	1 学 期	1	オリエンテーション			主体		
		4	6 話 読	コミュニケーションは技術だ	具体例と主張の関係を捉え、その効果や説得力について考えている。	筆者の体験と「コミュニケーション」との関係に着目し、筆者の主張の展開の仕方を的確に捉えている。	コミュニケーションに対して意欲を持ち、自分の生活や学習の中で実践しようとしている。	主 体 他 続 コ 思 考 判 断 対 応 基 礎 門
		5	6 書 読	日本語を使いこなす	改まった場面にふさわしい言葉遣いや、文末表現の使い分けについて理解している。	言葉の特徴をふまえ、場面に応じた適切な言葉や表現を工夫している。	言葉の使い分けに興味を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	
		6	5 話 読	ナンバーワンかオンリーワンか	接続表現の働きを十分に理解し、自分で例文を考えている。	筆者の主張を的確に捉え、それに対する自分の考えを持っている。	積極的に学習に取り組み、説明の仕方をとらえようとしている。	
		7	8 話 書	料理レシピを書こう	わかりやすく説明することを意識し、正確かつ効果的な表現や表記を用いている。	目的や読者を意識して、説明の内容を整理している。	わかりやすい説明をするに強い関心を持ち、他のレシピを書くことなどに積極的に取り組もうとしている。	
		8	4 話 書	聞く力を育む	話し言葉の特徴や表現などを踏まえて、情報をほぼ完全に聞き取っている。	聞き取った情報を、活用の仕方を考えながら効果的に整理してメモしている。	「聞くこと」の大切さを理解し、聞き取りの学習活動に積極的に取り組もうとしている。	
		10	6 話 読	オカピの胃袋はいくつ	筆者の主張とその論拠となる情報を的確に把握できている。	段落ごとの役割を把握し、要約に生かしている。	学習に取り組み、具体と抽象の関係、具体例の役割、筆者の主張などを捉えようとしている。	
		11	5 書 読	商品と贈り物の違い	チョコレートを貰う、贈るという具体例を用いたことの効果を捉えている。	具体例や対比を用いたことの効果について考えている。	対比の関係、具体と抽象の関係などを見出そうとし、筆者の主張を把握する手がかりとしようとしている。	
		12	4 話 書	ももこのいきもの図鑑	擬人的な表現など、表現上の工夫を自ら指摘し、その効果について考えている。	筆者やその作品について知識を持ち、ほかにもエッセイの書き手や作品を挙げている。	筆者の着眼点、話の展開の仕方、文体、表現上の工夫などについて自分の考えを持って評価し、考察している。	
	2 学 期	1	4 話 読	世界は私にほほえんでいる	筆者の主張に対して、ロフマイヤーの実験が根拠になっていることを理解している。	図の内容と筆者の主張との関係を理解し、その効果や説得力を吟味している。	図との関係に注意しながら、筆者の主張を読み取ることに強い興味を持ち、コミュニケーションにおける表情の役割について、考えを深めようとしている。	
2	6 話 書	何のために「働く」のか	具体例や言い換えなどの述べ方についての確に理解し、その適切さや効果などについて考えている。	「何のために『働く』のか」という問いに対する筆者の主張を捉え、それに対して適切な根拠を踏まえて自分の考えを持っている。	筆者の主張とその根拠を捉えようとし、「働く」ことについて自分の考えを持とうとしている。			
通 年	15	漢字の学習	常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	目的や意図に応じ、適切な漢字を選択しようとしている。			
計	70							

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教科名	地理歴史	学年・クラス	2年工業技術科
科目名	地理総合	単位数	2
教科書	地理総合（実教・地総702）		
準教科書	なし		

				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
育成を目指す 資質・能力				地理的諸事象や地域性、現代的諸課題の分析・考察に必要とされる基礎的知識（用語・地名など）や基本的概念（空間、環境、地域）を身に付けている。文献や統計の分析などから地理情報を見だし、それを的確に用い社会的な事象を考察することができる。	現実社会の諸課題の解決に向けて、地理的諸事象との関わりから分析・考察・解釈し、事実を下に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、現代世界が抱える諸課題の現状を理解することができる。	地理的諸事象、現代的諸課題に興味・関心を抱き、それらを自分自身の生活との関わりから積極的に位置づけ、結び付けることができる。		
学習の進め方				①教科書の内容を中心に、現代社会に存在する諸事象を地理的観点から説明し、生徒の理解を深める。 ②世界各地が抱える諸課題について資料を活用し、意欲的主体的な学びを意識した学習を進める。 ③ノート・ワークシートなどを用いて学習状況の確認を行う。 ④他の科目など（公共、歴史総合、政治経済）と関連させながら、学習を進める。				
学習の留意点				①毎時間の出席を基本とする。授業に使用する物（教科書・ノートなど）は、忘れず準備すること。 ②板書事項はノートに書き留め整理しておくこと。また、授業中に提示された課題は毎時間ごとに取り組むこと。いずれも指定された期限内に提出すること。 ③授業における疑問・質問は放置せずその都度解消するように努め、意見・感想を発言するなど、積極的な姿勢で授業に参加すること。 ④日頃から、社会の出来事やニュースと学習事項との関連性を意識しておくこと。				
評価の方法				出席状況・授業態度・ワークシートなど提出物の取組み状況・授業時間内に行う単元テストを基に、「評価の観点（3項目）」に照らした評価を元に、総合評価を行う。				
	学期	月別	時間	単元	評価基準			資質・能力
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
授業の内容	1学期	4	4	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界	地理的諸事象や地域性、現代的諸課題の分析・考察に必要とされる基礎的知識（用語・地名など）や基本的概念（空間、環境、地域）を身に付けている。文献や統計の分析などから地理情報を見だし、それを的確に用い社会的な事象を考察することができる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、地理的諸事象との関わりから分析・考察・解釈し、事実を下に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、現代世界が抱える諸課題の現状を理解することができる力を養っている。	地理的諸事象、現代的諸課題に興味・関心を抱き、それらを自分自身の生活との関わりから積極的に位置付け、結び付けることができる主体としての自覚などを深めている。	主体 自他継続 コミ 思考 判断 対応 基礎 専門
		5	6	1. 球面と平面				
		6	8	2. 緯度と経度				
		7	4	3. 日常生活の中の地図				
		8	4	4. 国家と領域				
		9	8	5. 日本の位置と領域				
	2学期	10	8	6. 国家間の結び付き				
		11	8	7. モノ・人・情報のグローバル化				
		12	6	8. 世界の交通、物流と日本				
		1	4	9. 観光のグローバル化				
		2	6	第2編 国際理解と国際協力				
		3	4	1. 自然環境と生活文化				
	3学期	4	6	2. 産業の進展によって変化する生活文化	第1編と第2編の学習で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や地理的な空間で発生する諸事象を理解するための基本的原理を活用するとともに、第1編及び第2編で習得した知識及び技能を活用している。	地域創造や、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、ともに生きる社会を築いていくという観点から課題を見出し、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして論拠を基に自分の考えを説明、論述している。	よりよい社会の実現を視野に入れつつ、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、ともに生きる社会を築くという観点から課題を見出し、諸課題を主体的に解決しようとしている。	主体 自他継続 コミ 思考 判断 対応 基礎 専門
		5	8	3. 宗教に基づいた生活文化				
		6	8	4. 国家・民族・言語の結び付きと生活文化				
		7	8	5. 移民とともに形成された生活文化				
		8	4	6. 地球的課題と国際協力				
計				70				

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教 科 名	数学	学年・クラス	2年工業技術科
科 目 名	数学 I	単 位 数	2
教 科 書	数学 I (啓林館・数 I 709)		
準 教 科 書	なし		

育成を目指す 資 質 ・ 能 力	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・ 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	- 次の力を身に付けている。 ・ 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力。 ・ 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力。 ・ 関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力。 ・ 社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力。	・ 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
学習の進め方	・ 例題などを用いて解法の解説を行い、それに関連する練習問題に取り組むことで学習の定着を図る。 ・ 授業内容は各自ノートに記載し、授業の最後に提出する。また、必要に応じてプリント提出を課す。 ・ 本時の内容や前時の内容の理解度を確認する小テストを実施する。 ・ いくつかの単元ごとに内容の理解度を確認する単元テストを実施する。		
学習の留意点	・ 授業中は学習に集中して取り組み、小テストで確実に得点をとることができるようにする。 ・ ノート、プリントなどの提出を課されたものは確実に提出する。 ・ 学習の障害になると判断される行動をとらない。		
評価の方法	出席状況、提出物の状況、各種テストの得点、授業の取組姿勢などを総合的に判断し評価する。		

学 期	月 別	時 間	単 元	評 価 基 準	資 質 能 力		
				知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む態度	
授 業 の 内 容	1 学 期	4 5	第1章 数と式 第3節 1次不等式	・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、一次不等式の解を求めることができる。	・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用することができる。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	主体 自他 継続 思考 対応 基礎
		6	第2章 2次関数 第1節 関数とグラフ	・二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・二次関数の最大値や最小値を求めることができる。 ・二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解している。	・二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。 ・二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。		
		7	第2節 2次関数の最大・最小	・二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる。			
		8	第3節 2次関数と方程式・不等式				
		9	第3章 集合と命題 第1節 集合	・集合と命題に関する基本的な概念を理解することができる。	・集合の考え方をを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができる。		
	2 学 期	10	第4章 図形と計量 第1節 鋭角の三角比	・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解することができる。 ・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解することができる。 ・正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。	・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができる。 ・図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	主体 自他 継続 思考 対応 基礎
		11	第2節 三角比の拡張				
		12	第3節 正弦定理と余弦定理				
		1	第4節 図形の計量				
		2	第5章 データの分析 第1節 データの整理と分析	・分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解することができる。 ・具体的な事象において仮説検定の考え方を理解することができる。	・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。 ・目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。		
計	70						

育成を目指す 資質・能力	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度						
	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解する。目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。		自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫できるとともに、それらを他者に伝えられる。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断できるとともに、それらを他者に伝えることができる。		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組むことができる。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組むことができる。						
学習の進め方	・一斉授業及び、男女共修で授業を展開する。 ・単元毎に実技（授業）を進める上で自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることができるようにする。										
学習の留意点	・他との協調性を身に付けるとともに、運動に親しむ姿勢を身に付ける。 ・一斉授業又はグループ学習により、生徒の自主性、協調性、責任感などを育てる。 【服装について】 指定ジャージ・指定上靴を着用すること。										
評価の方法	「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を総合的に判断し評価する。										
授業の内容	1学期	4月2日	2	・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動 ・集団行動	・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。	・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどをしてしたり、健康・安全を確保したりしている。	自他継続判断基礎			
				10	・マット運動	・回転系や技巧系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。	・技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしてしたり、健康・安全を確保したりしている。	主体継続思考基礎		
				16	・バスケットボール	・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによって相手コートまでやゴールまでの攻防をすることができる。	・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	主体自他継続コミ判断対応基礎継続		
				8月9日	16	・バレーボール	・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。				
				2学期	10月4日	4	・体育理論 ・新体力テスト	・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断できるとともに、他者に伝えている。	・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。	思考判断基礎
					11月12日	12	・フットサル	・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによって相手コートまでやゴールまでの攻防をすることができる。	・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	主体自他継続判断対応
	12月12日	10	・バドミントン		・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。			主体自他継続コミ判断			
	1月2日										
	2月3日										
	計	70									

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教 科 名	保健体育	学年・クラス	2年工業技術科
科 目 名	保健	単 位 数	1
教 科 書	現代高等保健体育（大修館・保体701）		
準 教 科 書	なし		

				知 識 ・ 技 能		思 考 ・ 判 断 ・ 表 現		主体的に学習に取り組む態度		
育成を目指す 資 質 ・ 能 力				個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けるようにする。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えられるようにする。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組めるようにする。		
学習の進め方				①授業に使用する物（教科書・ノートなど）は、忘れず準備するようにする。 ②板書事項はノートに書き留め整理し、授業中に配布するプリントは毎時間ごとに取り組むようにする。 ③ICT機器の活用を検討し、個別及びグループ学習などにおいて意見・感想を発言するなど、主体的に学習に取り組むようにする。						
学習の留意点				①あらかじめ授業に使用する物を準備する。 ②板書事項はノートに書き留め整理しておく。また、授業中に配布するプリントは毎時間ごとに取り組む。いずれも指定された期限内に提出する。 ③授業における疑問・質問は放置せず、その都度解消するように努め、学習内容について発言するなど、積極的な姿勢で授業に参加する。						
評価の方法				観点別評価及び、小テスト及び単元テストの結果を踏まえ、総合的に判断し評価する。						
授 業 の 内 容	学 期	月 別	時 間	単	元	評	価	基	準	資 質 能 力
				知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む態度	能 力			
		1	4	1	オリエンテーション	・ 応急手当には、正しい手順や方法があること。 ・ 応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。	・ 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。	・ 安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎	
					2. 安全な社会生活					
			5	1 1 1	応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法					
		2	6	2 2 1 7 1 8 2 9 2	3. 生涯を通じる健康	・ 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。 ・ 労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解している。	・ 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・ 生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎	
					ライフステージと健康					
					思春期と健康					
					性意識性行動の選択					
					妊娠・出産と健康					
					中高年期と健康					
		3	10 11 12 1 2 2 3	2 2 2 1 2 1 2 2 1	4. 健康を支える環境づくり	・ 人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があることを理解している。 ・ 食品の安全性を確保することは健康を保持増進に重要であることを理解している。 ・ 生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であること。また、医薬品を正しく使用することが有効であることを理解している。 ・ 我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていることを理解している。 ・ 自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であることを理解している。	・ 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 ・ 健康を支える環境づくりに関する学習に主体的に取り組もうとしている。	・ 健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎	
					大気汚染と健康					
					水質汚濁、土壌汚染と健康					
					環境と健康にかかわる対策					
	ごみの処理と上下水道の整備									
	食品の安全性									
	食品衛生にかかわる活動									
	計	35								

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教科名	外国語	学年・クラス	2年工業技術科
科目名	英語コミュニケーションⅠ	単位数	1
教科書	All Aboard! English Communication I (東書・C I 701)		
準教科書	なし		

				知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む態度			
育成を目指す 資 質 ・ 能 力				〔知識〕英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 〔技能〕コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、話された文や書かれた文の内容を捉え、情報や気持ちを言葉や文字、それ以外の手段で伝えあう技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、必要な情報を聞き取り、読み取って、その概要・要点を捉え、情報や気持ちを言葉や文字、それ以外の手段で伝え合うやりとりをしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、書き手に配慮しながら主体的、自立的に英語で話そう、聞こう、読もう、書こうとしている。			
学 習 の 進 め 方				1年生からの継続で同じ教科書を使って授業をすすめていきます。基本的な英語のルール（英文法）と単語や熟語、基本的表現を学んでいきます。各レッスンの目標となる基本表現を繰り返し練習して、自分で表現できるようにします。また、自分たちが直接経験できない様々な地域とその文化について授業を通して知識を深めます。					
学 習 の 留 意 点				英語学習で大切なことは間違えることを恐れず、積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度です。そのためには一人一人が理解しよう、伝えようとする主体的な態度を持たなければなりません。教室においては、互いがよく協力して効率よい練習ができるようにしましょう。そのため、次の2つのルールを守ってもらいます。 ①Respect everyone. ②Tell me when you don't understand. (①互いを大事に協力し合う。②分からないときには質問する)					
評 価 の 方 法				授業における活動を下の観点で3段階ABCで評価して、最終的に各観点の点数をまとめて5段階の評定として出します。日常の授業の中での取組すべてが評価対象でとくに授業中の学習姿勢、努力は評価の根幹です。また授業を欠くことは評価すべき内容が少なくなるということになりますので欠席が多ければ評価に大きく影響します。授業開始の挨拶から始まる授業全般の取組に加えて、小テスト、パフォーマンステスト、単元テストの結果が評価の内容として加えられます。					
授 業 の 内 容	1 学 期	4	3	Lesson 4 A Miracle Mirror	ボリビアの絶景で知られるウユニ塩原について読む。 to不定詞を用いた文の形・意味・用法をの用法を理解する。	行ってみたい場所ややりたいことについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめ、気持ちを伝えられる。	行ってみたい場所ややりたいことについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめ、気持ちを伝え合おうとしている。	主体 基礎 コミ 自他	
			5 6	3 2					
		6	2	Lesson 5 Learning from the Sea	長浜高校水族館部の活動について読む。 動名詞について理解する。	将来の夢について述べたり、先週末に楽しんだことを伝えられる。	他校の生徒の学校生活について知り、様々な高校生活があることを理解し、動名詞を使った表現を覚えようとしている。	主体 基礎 コミ 自他	
			7 8 9	2 2 2					
			9	2	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period	スピーチ文を読む。 受動態を理解する。	スピーチの形を理解し、趣旨を理解している。 受動態の表現を理解している。	スピーチの内容を理解しようとしている。 受動態の形を理解し、表現しようとしている。	主体 基礎 コミ 自他
		9	1	単元テスト				主・基	
	2 学 期	10	3	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period	スピーチ文を読む。 受動態を理解する。	スピーチの形を理解し、趣旨を理解している。 受動態の表現を理解している。	スピーチの内容を理解しようとしている。 受動態の形を理解し、表現しようとしている。	主体 基礎 コミ 自他	
			11	2					
		11	2	Lesson 7 A Diary of Hope	アンネ・フランクについて理解する。 比較表現〈-er〉〈the -est〉〈as+原級+as〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。	関心のある人物について、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合っている。	関心のある人物について、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合おうとしている。	主体 基礎 コミ 自他	
			12 1 2 3	2 2 2 2					
			2	1	単元テスト				主・基
		計		35					

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教科名	家庭	学年・クラス	2年工業技術科
科目名	家庭基礎	単位数	2
教科書	家庭基礎 明日の生活を築く（開隆堂・家基708）		
準教科書	なし		

				知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む態度		
育成を目指す 資 質 ・ 能 力				人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。	家庭を取り巻くさまざまな問題についてデータの分析を行い、解決の過程を考察したり、結果を判断したり表現したりする力を身に付ける。	家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。		
学習の進め方				・ワークシートを受け取り、板書を書き入れる。 ・教科書で調べてワークシートへ記入し、答え合わせをする。 ・ワークシートを指定のファイルに綴じ込んで提出する。 ・その日の課題を完成させて提出する。				
学習の留意点				・教科書と筆記用具を用意して授業に出席する。 ・授業中は学習に集中して取り組む。 ・ワークシートは記入して確実に提出する。 ・作品は期日までに完成させる。				
評価の方法								
	学期	月別	時間	単元	評 価 基 準	資 質 力		
					知識・技能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む態度	能 力
授 業 の 内 容	1 学 期	4	1	はじめに	・各ライフステージの特徴と課題について理解し自立や男女平等、協力について認識する。 ・子どもを取り巻く環境及び子育てについて理解し、子どもの生活や発達について認識する。 ・高齢期について理解し、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について認識する。 ・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解し、共生することの重要性について認識する。 ・被服管理に必要な知識と技術を習得する。	・自分を知り、これからも続く自分の生き方を考える。 ・遊びの意義や児童文化財の子どもへの影響について考える。 ・自らの高齢期について考える。 ・リスクに対する心構えや「助け合う」関係づくりについて考える。 ・環境にやさしい衣生活について考える。	・「家庭基礎」の学習目標や内容に関心を持つ。 ・将来の自分の結婚や家庭を想像する。 ・幼少期の話を通して、乳幼児期への関心を高める。 ・高齢者に関心を持ち、身のまわりの人々に視点を広げ、高齢期の生活に興味を持つ。 ・支え合い生きる「共生」の概念を持つ。 ・着装に関心を持ち、自分の個性を見つめ、自分らしい着装とTPOについて考える。	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎 専門
		7	1	1－1 青年期の自立と家族・家庭				
		5	8	1－2 子どもの発達と保育				
		6	6	1－3 高齢者の生活				
		7	3	1－4 共生社会における地域や家族				
	8							
	9	10	2－2 着る					
	2 学 期	10	18	2－1 食べる	・健康で安全な食生活を営むために必要な栄養、食品、調理及び食品衛生などの知識と技術を習得する。 ・住居の機能、住居と地域社会との関わりなどに必要な知識と技術を習得する。 ・消費生活の現状と課題や消費者の権利と責任について理解する。 ・生活と環境の関わりについて理解する。	・環境に配慮した食生活を考える。 ・家族の生活と各ライフステージに応じた住居の条件について考える。 ・生涯を見通した経済生活について考える。 ・生活資源を活用した、現実的な生活設計について考える。	・食生活に関する知識や情報を適切に活用して、食生活を主体的に営む意欲を持つ。 ・安全で環境に配慮した住生活を営むことができる。 ・消費生活について適切な意志決定に基づいて行動できるようにする。 ・持続可能な社会を目指してライフスタイルを工夫し、主体的に行動することができる。	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎 専門
		11	6	2－3 住まう				
		12	9	2－4 消費者市民として生きる				
1		2						
2		3	3 生涯の生活設計					
計		70						

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教科名	工業	学年・クラス	2年工業技術科
科目名	実習	単位数	3
教科書	なし		
準教科書	なし		

育成を目指す 資質・能力	知識・技能 ・各種機械と加工方法について理解している。 ・実習の方法を把握し、完成度の高い作品を作成することができる。	思考・判断・表現 ・指導された内容を理解した上で、効率のよい作業方法を自ら考え判断し作業を行うことができる。	主体的に学習に取り組む態度 ・実習内容に関心をもって実習担当の先生の指導を聞き、安全に配慮した作業を行うことができる。
学習の進め方	1. 毎時間の始めに本時の作業内容・予想される事故を確認してから、各テーマで実習を開始する。 2. 3班3テーマで展開、各班前期3時間×18週、後期3時間×17週で実施する。		
学習の留意点	1. 毎時間の出席を基本とし、欠席の場合は各実習担当の先生のところへ補習などの対応を依頼する。また、実習時間内で作品や課題を提出できない場合も同様に補習等の対応を依頼する。 2. 安全防具等を必ず着用し、自分で自分の身を守る。		
評価の方法	実習項目毎に評価を行い、学年末に全担当の先生で協議し決定する。		

授業 の 内 容	学 期	月 別	時 間	単 元	評 価 基 準			資 質 能 力
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期		4	9	機械加工	工業技術に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組むとともに、社会の発展をはかる創造的、実践的な態度を身に付けている。	工業技術に関する諸問題の適切な解決をめざして、広い視野からみずから考え、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現する能力を身に付けている。	工業の分野に関する基礎的な技術を身に付け、安全や環境にも配慮し、ものづくりを合理的に計画し、実際の仕事を適切に処理する技能を身に付け、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことを示している。	主体 継続 思考 判断 基礎 専門
		5	9					
		6	15	溶接				
		7	3					
		8	9	立体造形				
2 学 期		9	9					
		10	12	手仕上げ	工業技術に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組むとともに、社会の発展をはかる創造的、実践的な態度を身に付けている。	工業技術に関する諸問題の適切な解決をめざして、広い視野からみずから考え、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現する能力を身に付けている。	工業の分野に関する基礎的な技術を身に付け、安全や環境にも配慮し、ものづくりを合理的に計画し、実際の仕事を適切に処理する技能を身に付け、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことを示している。	主体 継続 思考 判断 基礎 専門
		11	12					
		12	9	鋳造				
		1	6					
		2	9	モルタル加工				
計		3	3					
			105					

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教科名	工業	学年・クラス	2年工業技術科
科目名	製図	単位数	2
教科書	製図（実教・工業707）		
準教科書	なし		

			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
育成を目指す 資質・能力			・図面における作図法や、製図器、 ドラフターの仕組、JIS規格につ いて理解することができる。 ・JIS規格や作図の方法について 理解し、それらを活用して作図す ることができる。	・製図における基礎的・基本的な知 識を活用して、適切に判断し、創意 工夫して製図法を身に付けようと している。	・製図について関心や探求心を持 ち、意欲的に追求する態度を身に付 けようとしている。			
学習の進め方			・機械製図における規格、種類、図示法、構造などについての基礎を学習する。 ・製図の基礎を理解した上で、様々な表現方法について学習する。					
学習の留意点			・基本的な線の引き方や文字の書き方などの図面の描き方のルールに従って図面を作図する。 ・作成する図面の記号や寸法などを理解した上で図面を作成する。 ・提出期限を厳守する。					
評価の方法			・出席状況・製図の取組み状況（毎時間）と製図に対しての理解、知識や技術が身に付いたか評価を行う。					
授 業 の 内 容	学 期	月 別	時 間	単 元	評 価 基 準	資 質 能 力		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
1 学 期	授 業 期	4	6	製図の基礎 直線、円、円弧の描き方	安全で安心な工業製品など ができるようにするた めに、工業の各分野に関する 製図について日本工業規格 （JIS）及び国際標準化機構 （ISO）規格を踏まえて理解 するとともに、工業の各分 野の製図における様々な状 況に対応できる技術を身に 付けるようにすることを意 味している。	実践的・体験的な学習活動 を行うことなどを通して、 工業の各分野における部品 や製品の図面の作成及び図 面から製作情報を読み取る ことができるようにするこ とをねらいとしている。	工業の各分野に関わる技術 を活用した部品や製品の図 面の作成及び図面から製作 情報を読み取る力の向上を 目指し、安全で安心な製品 に責任を持って自ら学び、 工業の発展に主体的かつ協 働的に取り組む態度を養う ことを示している。	主体 継続 思考 判断 対応 基礎 専門
		5	8	文字の練習				
		6	8	投影図の描き方				
		7	4	製作図 第三角法による作図 ・締付金具				
		8	4					
		9	8	・軸受け				
2 学 期	授 業 期	10	8	家具のデザイン① ・歴史 ・図面作成 ・仕上げ	安全で安心な工業製品など ができるようにするた めに、工業の各分野に関する 製図について日本工業規格 （JIS）及び国際標準化機構 （ISO）規格を踏まえて理解 するとともに、工業の各分 野の製図における様々な状 況に対応できる技術を身に 付けるようにすることを意 味している。	実践的・体験的な学習活動 を行うことなどを通して、 工業の各分野における部品 や製品の図面の作成及び図 面から製作情報を読み取る ことができるようにするこ とをねらいとしている。	工業の各分野に関わる技術 を活用した部品や製品の図 面の作成及び図面から製作 情報を読み取る力の向上を 目指し、安全で安心な製品 に責任を持って自ら学び、 工業の発展に主体的かつ協 働的に取り組む態度を養う ことを示している。	主体 継続 思考 判断 対応 基礎 専門
		11	6					
		12	4	家具のデザイン② ・RED&BLUE 図面作成				
		1	4					
		2	6	模型製作				
	3	4						
計		70						

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教科名	工業	学年・クラス	2年工業技術科
科目名	工業情報数理	単位数	2
教科書	工業情報数理（実教・工業718）		
準教科書	なし		

育成を目指す 資質・能力	知識・技能 ・情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技術を身に付けている。 ・コンピュータ社会の意義や情報モラルを理解している。	思考・判断・表現 ・諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身に付けており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。 ・身に付けた知識から、ネット上にある情報の善悪を区別することができる。	主体的に学習に取り組む態度 ・情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身に付けている。 ・コンピュータ社会や情報モラルについて興味・関心を持ち、利便性や課題について考察を深めることができる。
学習の進め方	・基礎的な知識をテキストを基に学習し、身近な事象を参考に理解を深めていく。 ・アプリケーションソフトを活用することで、実際に情報を処理する能力を身に付ける。		
学習の留意点	・毎時間の出席を基本とする。 ・授業に必要な物（教科書、ノート、プリントファイルなど）は、忘れずに準備する。 ・与えられた課題は期限内に提出する。 ・情報機器で処理する課題を必ずやり遂げる。		
評価の方法	出席状況、提出物、授業の取組状況を総合的に評価する。		

学 期	月 別	時 間	単 元	評 価 基 準			資 質 能 力
				知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む態度	
授 業 の 内 容	1 学 期	4 3	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 1節 コンピュータの基本操作	・キーボードやマウスを扱う技術を習得している。 ・情報の種類によって適切なアプリケーションソフトウェアを選択して使いこなす技術を習得している。	・OSとハードウェア、応用ソフトウェアの関係が考察できる。 ・各種のアプリケーションソフトウェアを活用して情報を処理し、必要な形式で出力できる。 ・各種検定試験の合格を目指す。	・基本ソフトウェアやOSの目的と種類などに関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。 ・ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトなどに関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	主体 継続 思考 判断 基礎 自他 対応
		5 10	2節 ソフトウェアの基礎 3節 アプリケーションソフトウェア				
		6 8					
	2 学 期	7 2	第3章 プログラミングの基礎 1節 プログラム言語	・基本的なプログラムを作成し、実行する技術を習得している。	・プログラム言語の分類を理解している。	・プログラムのつくり方に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	基礎 継続 思考 判断
		8 2	2節 プログラムのつくり方				
		9 3	第4章 BASICによるプログラミング 1節 BASICの特徴	・BASICプログラムの作成手順を理解し、簡単なプログラム作成のための技術を身に付けている。	・簡単なプログラムを読んで、どのような結果が出力されるか考察できる。	・プログラムの作成手順に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	基礎 主体 継続 思考
	3 学 期	10 6	第6章 ハードウェア 1節 データの表し方	・2進数と16進数、基本論理回路について理解し、四則計算や変換・計算ができる。	・10進数、2進数、16進数の構成と基本論理回路について、論理的に考察できる。	・2進数、10進数、16進数や基本論理回路などに関心がある。	基礎 思考 判断
		11 6	2節 論理回路の基礎				
		12 2	第7章 コンピュータネットワーク 1節 コンピュータネットワークの概要	・コンピュータネットワークに使用されている機器について理解し、簡単な接続ができる。	・実習室のネットワークに使用されている機器やネットワークの構成について説明できる。	・家庭のインターネット接続やコンピュータ実習室のネットワークに関心がある。	基礎 思考 判断
		1 4	第8章 コンピュータ制御 1節 コンピュータ制御の概要	・コンピュータ制御の概要について理解している。	・身のまわりの機器がコンピュータ制御されているか説明できる。	・身のまわりのコンピュータ制御に関心がある。	専門 思考 判断
		2 4	第9章 情報技術の活用と問題の発見・解決 2節 プレゼンテーション	・プレゼンテーションに必要なソフトの操作技術を習得している。	・適切な情報収集方法を選択して提案できる。	・情報を整理して他人に発表したり、文書でまとめた意欲がある。	基礎 主体 コミ
	計	70					